

●はじめに

望 月 昭

(オープン・リサーチ・センター整備事業
「臨床人間科学の構築」自己決定とQOLプロジェクト代表)

ファーストステップ・ジョブグループ (FSJG) は、2002年にグループ代表の上田陽子氏によって始められた「ひきこもり」の家族を持つ保護者による実践組織の名称である。

FSJGは、2002年、ひきこもりに関する機関誌『Kids』（ドーナツトーク社発行）にその実践経過と方法論が上田氏によって発表されたのを皮切りに、同年の日本行動分析学会ニューズレター（2002年夏号）掲載の『シリーズ現場に行く：第8回「ひきこもり」ジョブグループの現場から：ファーストステップ・ジョブグループの提案（上田陽子）』が、Web上においてそのユニークな概要が社会に向けて紹介されている。以来、様々な学会、研究会をはじめ、自治体における公開講演会などで、今、最も実効のある脱ひきこもりの実践・研究組織として全国から注目、評価されている。

FSJGとオープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築」（2005-2009）との関わりは、上田氏が社会人学生として立命館大学文学部心理学専攻に入学し、3年生時から行動分析的な対人援助を主なテーマとするゼミに参加し、翌年、「脱ひきこもり支援」について、従来の方法とは全く異なるユニークな実践的研究を卒業論文としてまとめたことから始まる。その後、上田氏は立命館大学の応用人間科学研究科の院生として、自らの実践を展開、精錬すると同時に、人間科学研究所の客員研究員としても、オープン・リサーチ・センター整備事業の「自己決定とQOL」プロジェクトの一員として、様々な領域の研究者や地域関係者との「連携」、そして実践活動からみえてきた対人援助学という既存学範の「融合」形成について、自身の活動を通じて、文字通り、身を以て体現してきた。

当特集は、2009年2月22日に、大阪で開かれたFSJG主催の「FSJG特別例

会一講演会：今、必要な援助 ～『脱ひきこもり支援』FSJGの活動から見たこと～」における、上田陽子（FSJG代表・立命館大学衣笠総合研究機構人間科学研究所客員研究員）、望月昭（立命館大学大学院応用人間科学研究科教授）、野池雅人（きょうとNPOセンター事業統括マネージャー）、川北稔（愛知教育大学大学院教育実践研究科講師）の4名による講演録である。

本文にも示されているように、このFSJGの実践の基盤にある「連携と融合」のための基本的枠組みは、行動分析学（Behavior Analysis）を基本枠組として用いた「対人援助学」である。この実践においては、とりわけ、対人援助に関わる目標設定のあり方と倫理、それに基づく具体的方法、個別の個人の行動成立に必要な環境設定の同定、そして、そのことを社会に向けての表明するに至る一連の対人援助の実践・研究に、一貫した行動分析学のロジックを用いて行うことに成功している。

ファーストステップ・ジョブというグループの名称があらわすもの、そのために採られた方法論は、「ひきこもり」に限らず、あらゆる対人援助作業に共通するスタンスといえる。そのことの意味については今回の特集においても確認することができるが、さらに、過去の発表においても繰り返し示されている。2005年に開かれた「FSJG 特別例会『いつでも最初の一步』」、2007年における「特別公開座談会：脱ひきこもり支援：確認されたもの・続けたいものについてみんなで語ろう」などにその事はよく示されている。前者については、以下のURLからDLすることもできる

(<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~mochi/uedacomplete.pdf> : <http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~mochi/uedacomplete.pdf>)。

また、FSJGの活動は、ホームページ (<http://www.human.ritsumei.ac.jp/fsjg/index.html>) にも詳しいので、是非併せて参照していただきたい。